



フィットネスプログラムの実証実験を開催

介護予防推進事業の「健幸ととのえフィットネスプログラム」が行われ、参加した44歳から64歳までの9人は、健康への意識を高めました。

音楽に合わせ、ウォーキングなど手や足、全身を使って心拍数を上げる有酸素運動を中心とした20分のプログラムで、1月14日に総合ケアセンターゆくりで対面レッスンを、16日には参加者が自宅からタブレットなどを使ってリモートレッスンを体験したほか、空き時間を利用した動画プログラムで汗を流しました。参加者から「運動するきっかけになった」や「機会があればまた是非参加したい」などの感想が寄せられました。



総合ケアセンターで
フィットネスプログラムに汗を流す参加者



寄付目録を町長に贈る
岩倉建設株式会社の鈴木社長

岩倉建設株式会社が町に500万円寄付

岩倉建設株式会社は1月30日、町に500万円の寄付目録を贈りました。

企業版ふるさと納税制度を活用した寄付で、町の復旧に向けた「住みたい・訪れたい空間づくり事業」に活用する予定です。

同社の鈴木泰至代表取締役社長は「長年、お世話になっています。国からの復興事業や今後のまちづくりに活用していただきたい」と話し、宮坂町長は「公共施設などの復興事業に使わせていただきます。引き続き、お力添えをお願いします」と感謝しました。

令和4年度北海道農業士 北島さんと日西さんを認定

令和4年度の北海道農業士に北島誠視さん(軽舞)と日西大介さん(表町)が認定され、2月9日に町長に報告しました。

北島さんは、主力の水稲経営にいち早くスマート農業を取り入れ、地域への普及の原動力になりました。また、日西さんは、自動操舵田植え機やドローンによる防除などで水稲作業の省力化と効率化を図り、新規就農者に技術支援も行っています。

宮坂町長は「農業の魅力を追求していただき、今後のチャレンジ精神に期待しています」と語ると、北島さんは「適期収穫で収量を安定させながら頑張ります」、日西さんは「最新技術を取り入れて農作業の省力化と品質向上を目指します」と答えました。



北海道農業士の認定を町長に報告する
北島さん(中央)と日西さん



特製の「上小弁当」を販売する
上厚真小学校の5年生たち

上厚真小5年生が「上小弁当」の売上金を町に寄付

上厚真小学校の5年生10人が2月9日、青少年センターの2階ロビーで、町内の食材を使った特製の「上小弁当」を限定40食販売し、売上金の全額を町に寄付しました。

メニューは、地場産業体験授業で育てた米やハウレンソウ、しいたけなどを使って考案しました。町長を訪ねた児童代表の2人が「町の防災や介護などに役立ててください」と話して寄付すると、宮坂町長は「安心のために使わせていただきます」と感謝しました。